

## 教員資格及び教育内容などの自己評価書様式

2023年5月31日

## 【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
理学療法学科	人	人	人	人	人	9人	9人	人	6人	11.5人
作業療法学科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	11人	8人
計	人	人	人	人	人	15人	15人	人	人	—

## 【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置数が適正でない。	1

## 【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

## 【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

理学療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	1	大久保 智生	兼任
		情報科学	1	井内 健二	兼任
		生化学	1	宇山 徹	兼任
		統計学	1	藤田 和憲	兼任
		人間工学	1	田中 裕介	専任
		物理学	1	村上 匡司	専任
		コミュニケーション論	1	坂口 千恵美	専任
		英語	1	Michael Newlin	兼任
		人間育成学Ⅰ	1	中嶋 志保	専任
		人間育成学Ⅱ	1	菅原 健太郎	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖運動学Ⅰ	2	中嶋 志保	専任
		解剖運動学Ⅱ	2	田中 裕介	専任
		解剖生理学Ⅰ	3	宮内 貴志子・横川 光代	専任
		解剖生理学Ⅱ	3	宮内 貴志子	専任
		解剖学実習	1	村上 匡司・田中 裕介	専任
		人間発達学	1	宮内 貴志子	専任
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	1	福田 琴	兼任
		一般臨床医学	2	宮内貴志子・坂口千恵美	専任
		リハビリテーション診断学	2	村上 匡司	専任
		リハビリテーション整形外科学	2	横川 光代	専任
		リハビリテーション神経学	2	菅原 健太郎	専任
		リハビリテーション内科学	2	中嶋 志保	専任
		精神医学	1	植野 英一	兼任
		小児科学	1	宮内 貴志子	専任
		老年学	1	坂口 千恵美	専任
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション論	1	中内 英樹	専任
		理学療法概論	1	中内 英樹	専任
		保健医療福祉論	1	横倉 益弘	専任
専門分野	基礎理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	1	横川 光代	専任
		基礎理学療法学Ⅱ	1	菅原 健太郎	専任
		基礎理学療法学Ⅲ	1	中嶋 志保	専任
		基礎理学療法学Ⅳ	1	村上 匡司	専任
		日常生活活動学	1	村上 匡司	専任
		理学療法研究論	1	菅原 健太郎	専任
	理学療法管理学	理学療法管理論	1	中内 英樹	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2	中嶋 志保	専任
		理学療法評価学Ⅱ	2	横川 光代	専任
		理学療法評価学Ⅲ	1	村上 匡司	専任
		動作分析セミナー	1	田中 裕介	専任
	理学療法治療学	運動療法学	3	田中 裕介	専任
		物理療法学	1	村上 匡司	専任
		義肢装具学Ⅰ	1	坂口 千恵美	専任
		義肢装具学Ⅱ	1	坂口 千恵美	専任
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2	横川 光代	専任
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2	横川 光代・田中 裕介	専任
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	田中 裕介	専任
		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	2	菅原 健太郎	専任
		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	1	村上 匡司	専任
		内部障害の理学療法Ⅰ	1	宮内 貴志子	専任
		内部障害の理学療法Ⅱ	1	中嶋 志保	専任
		内部障害の理学療法Ⅲ	1	村上 匡司	専任
		発達障害の理学療法	1	宮内 貴志子	専任
		ペーパーペーシェントセミナー	2	中嶋 志保・横川 光代	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学	1	坂口 千恵美	専任
		生活環境学Ⅰ	1	坂口 千恵美	専任
		生活環境学Ⅱ	1	坂口 千恵美・田村 治仁	専任
	臨床実習	見学実習	1	横川 光代・中嶋 志保	専任
		評価実習Ⅰ	2	田中 裕介・菅原 健太郎	専任
		評価実習Ⅱ	2	田中 裕介・菅原 健太郎	専任
		総合臨床実習Ⅰ	8	坂口 千恵美・村上 匡司	専任
		総合臨床実習Ⅱ	8	坂口 千恵美・村上 匡司	専任

作業療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	1	植野 英一	専任
		情報科学	1	井内 健二	兼任
		論理学	1	谷淵 加奈子	専任
		社会学	1	辰巳 裕子	兼任
		人間工学	1	廣永 大祐	専任
		コミュニケーション論演習Ⅰ	1	大川 麻美	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	コミュニケーション論演習Ⅱ	1	馬場 広志	専任
		健康科学	1	植野 英一	専任
		英語	1	Michael Newlin	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	上肢解剖運動学Ⅰ	1	山下 良二	専任
		上肢解剖運動学Ⅱ	1	山下 良二	専任
		下肢体幹解剖運動学	1	山下 良二	専任
		解剖運動学演習	1	廣永 大祐	専任
		内臓学	1	植野 英一	専任
		解剖学実習	1	大川 麻美	専任
		運動生理学Ⅰ	1	廣永 大祐	専任
		運動生理学Ⅱ	1	廣永 大祐	専任
		運動生理学Ⅲ	1	廣永 大祐	専任
		運動生理学演習	1	廣永 大祐	専任
	人間発達学	1	馬場 広志	専任	
	疾病と傷害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	1	廣永 大祐	専任
		臨床心理学	1	福田 琴	兼任
		一般臨床医学Ⅰ	1	植野 英一	専任
		一般臨床医学Ⅱ	1	植野 英一	専任
		内科学	1	植野 英一	専任
		整形外科Ⅰ	1	馬場 広志	専任
		整形外科Ⅱ	1	大川 麻美	専任
		神経病学Ⅰ	1	馬場 広志	専任
		神経病学Ⅱ	1	馬場 広志	専任
		精神医学	1	植野 英一	専任
	健康管理学	1	馬場 広志	専任	
	老年学	1	谷淵 加奈子	専任	
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	リハビリテーション医学概論	1	横倉 益弘	専任	
	保健医療福祉連携論	1	横倉 益弘	専任	
	地域・国際コミュニティ論	1	谷淵 加奈子	専任	
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	1	廣永 大祐	専任
		作業療法理論	1	谷淵 加奈子	専任
		基礎作業学	1	大川 麻美	専任
		基礎作業学実習Ⅰ	1	大川 麻美	専任
		基礎作業学実習Ⅱ	1	山下 良二	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1	谷淵 加奈子	専任
		作業療法管理学Ⅱ	1	谷淵 加奈子	専任
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1	山下 良二	専任
		運動器作業療法評価学	1	山下 良二	専任
神経筋作業療法評価学		1	山下 良二	専任	

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門分野	作業療法評価学	作業療法評価学演習Ⅰ	1	山下 良二	専任
		作業療法評価学演習Ⅱ	1	山下 良二	専任
	作業療法治療学	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	1	馬場 広志	専任
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	1	馬場 広志	専任
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	1	大川 麻美	専任
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	1	田村 篤史	兼任
		内部疾患作業療法学	1	植野 英一	専任
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	馬場 広志	専任
		発達障害作業療法学Ⅱ	1	石井 晶子	兼任
		精神障害作業療法学概論	1	前田 悠志	兼任
		精神障害作業療法学Ⅰ	1	植野 英一	専任
		精神障害作業療法学Ⅱ	1	小松博彦・福家亜希子	兼任
		高齢期作業療法学	1	谷淵 加奈子	専任
		生活行為学Ⅰ	1	谷淵 加奈子	専任
		生活行為学Ⅱ	1	谷淵 加奈子	専任
		生活行為向上マネジメント学	1	谷淵 加奈子	専任
		義肢学	1	大川 麻美	専任
		装具学実習	2	大川 麻美	専任
		作業療法総合論	2	大川麻美、廣永大祐	専任
	地域作業療法学	住環境整備論	1	廣永 大祐	専任
		地域作業療法学	1	山下 良二	専任
		福祉用具学	1	多田 晃平	専任
		就労支援技術論	1	馬場 広志	専任
	臨床実習	見学実習Ⅰ	1	大川麻美・植野英一	専任
		見学実習Ⅱ	1	大川麻美・植野英一	専任
		評価実習	3	山下良二・谷淵加奈子	専任
		総合臨床実習Ⅰ	12	馬場広志・廣永大祐	専任
		総合臨床実習Ⅱ	12	馬場広志・廣永大祐	専任

【自己評価2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づかない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

理学療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
動作介助（誘導補助）技術の見学と実践	2年前期	人間工学	1年後期
		日常生活活動学	2年前期
リスク管理技術の見学と実践	1年後期	一般臨床医学	1年後期
		理学療法管理学	3年前期
理学療法評価技術（検査測定技術）の見学と実践	1年後期	解剖運動学Ⅱ	1年前期
		コミュニケーション論	1年前期
		人間発達学	1年後期
		理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学Ⅲ	2年後期
		ペーパーペーシェントセミナー	3年前期
理学療法治療技術（運動療法技術）の見学と実践	3年前期	運動療法学	2年前期
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2年後期
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2年後期
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	2年後期
		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	2年後期

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法治療技術（運動療法技術）の見学と実践	3年前期	中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	2年後期
		中枢神経疾患の理学療法Ⅲ	2年後期
		内部障害の理学療法Ⅰ	2年後期
		内部障害の理学療法Ⅱ	2年後期
		内部障害の理学療法Ⅲ	2年後期
		発達障害の理学療法	2年後期
		ペーパーペーシェントセミナー	3年前期
理学療法治療技術（物理療法技術）の見学と実践	3年前期	物理学	1年前期
		物理療法学	2年後期
義肢装具・福祉用具・環境整備技術の見学と実践	3年前期	義肢装具学Ⅰ	2年前期
		義肢装具学Ⅱ	2年後期
		生活環境学Ⅰ	2年前期
		生活環境学Ⅱ	2年後期
救命救急処置技術の見学	1年後期	一般臨床医学	1年後期
通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの見学と実践	1年後期	リハビリテーション医学概論	1年前期
		理学療法概論	1年後期
		保健医療福祉論	2年前期
		地域理学療法学	2年後期

#### 作業療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
動作介助（誘導補助）技術の見学と実践	1年後期	人間工学	1年前期
		生活行為学Ⅰ	1年後期
		生活行為学Ⅱ	2年前期
リスク管理技術の見学と実践	1年前期	健康科学	1年前期
		一般臨床医学Ⅰ	1年後期
		作業療法管理学Ⅰ	2年前期
作業療法評価技術（検査測定技術）の見学と実践	2年後期	コミュニケーション論Ⅰ	1年前期
		上肢解剖運動学Ⅰ	1年前期
		上肢解剖運動学Ⅱ	1年前期
		下肢体幹解剖運動学	1年前期
		人間発達学	1年前期
		作業療法評価学概論	1年後期
		運動器作業療法評価学	2年前期
		神経筋作業療法評価学	2年前期
		作業療法評価学演習Ⅰ	2年後期
作業療法評価技術（検査測定技術）の見学と実践	2年後期	作業療法評価学演習Ⅱ	2年後期
		生活行為向上マネジメント学	2年後期
作業療法治療技術の見学と実践	2年後期	基礎作業学	1年後期
		基礎作業学実習Ⅰ	2年前期
		基礎作業学実習Ⅱ	2年後期

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法治療技術の見学と実践	2年後期	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ	2年前期
		中枢神経疾患作業療法学Ⅱ	2年後期
		運動器疾患作業療法学Ⅰ	2年前期
		運動器疾患作業療法学Ⅱ	2年後期
		内部疾患作業療法学	3年前期
		発達障害作業療法学Ⅰ	2年前期
		発達障害作業療法学Ⅱ	2年後期
		精神障害作業療法学概論	1年後期
		精神障害作業療法学Ⅰ	2年前期
		精神障害作業療法学Ⅱ	2年後期
		高齢期作業療法学	2年後期
義肢装具・福祉用具・環境整備技術の見学と実践	2年後期	義肢学	2年前期
		装具学実習	2年後期
		住環境整備論	2年後期
		福祉用具学	2年後期
		生活環境学Ⅱ	2年後期
通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの見学と実践	1年前期	リハビリテーション医学概論	1年前期
		作業療法概論Ⅰ	1年前期
		保健医療福祉連携論	2年前期
		地域・国際コミュニティ論	2年前期
		地域作業療法学	2年後期

【自己評価3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

理学療法学科・作業療法学科

自己点検・評価組織名	自己評価委員会
委員名（委員長）	植野 英一（委員長）
組織の開催頻度	年1回
組織の取り組み内容	<p>委員会は、次の事項を点検・評価する。</p> <p>(1)教育理念・目標に関する事 (2)教育活動に関する事  (3)研究活動に関する事 (4)教員組織に関する事  (5)施設・設備に関する事 (6)管理・運営に関する事  (7)社会との連携に関する事 (8)その他自己点検・評価に関する必要事項</p>
自己点検・評価結果の公表	<p>学校ホームページで公表</p> <p>URL:<a href="https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ark1.pdf">https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ark1.pdf</a></p>

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	<p>松本 義人（医療法人社団 西高松外科・内科クリニック 理事長）  藤井 保貴（一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長）  樋本 英司（一般社団法人 香川県作業療法士会 理事）  青戸 啓二（医療法人社団研宣会 広瀬病院 リハビリテーション部 部長）※委員長  中川 真人（介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長）  宮滝 寛己（香川県立香川中央高等学校 校長）  上杉 敬治（香川県立丸亀城西高等学校 校長）  山地 茂之（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ保護者会 支部長）  亀山 健太（穴吹リハビリテーションカレッジ同窓会 会長）</p>
組織の開催頻度	年1回
組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者ならでの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。</li> <li>・自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する。</li> <li>・結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける。</li> </ul>
自己点検・評価結果の公表	<p>学校ホームページで公表</p> <p>URL:<a href="https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ark2.pdf">https://web.anabuki-college.net/content/uploads/ark2.pdf</a></p>

【自己評価4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

理学療法学科

	名称	教育課程編成委員会
該当する仕組み	委員構成等	松本義人（医療法人社団 西高松外科・内科クリニック 理事長） 藤井保貴（一般社団法人 香川県理学療法士会 副会長） 田岡知代（医療法人社団新進会おさか脳神経外科病院リハビリテーション室長） 横倉益弘（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校長） 中内英樹（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長） 植野英一（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 教務部 教務部長）
	改善の仕組みの実際	カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

作業療法学科

	名称	教育課程編成委員会
該当する仕組み	委員構成等	松本義人（医療法人社団 西高松外科・内科クリニック 理事長） 樋本英司（一般社団法人 香川県作業療法士会 理事） 中川真人（介護老人保健施設 白寿の杜 リハビリ室長） 横倉益弘（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 校長） 中内英樹（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 副校長） 植野英一（専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 教務部 教務部長）
	改善の仕組みの実際	カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

#### 1) 学校関係者評価結果の活用状況

①進路選択においてSNS活用はあまり見られず、親や先輩の影響が大きい。是非身近なロールモデルを紹介していただきリハビリテーション分野の情報を伝えてほしい。

⇒職業探究を自ら行った上で進学してもらった観点からインスタグラム、YouTubeの発信、職能団体のホームページの紹介に力を入れている。現在ロールモデルのリーフを作成し、本学広報が高校訪問時に持参しているが、より関心が高まる内容への見直し、高専接続連携や探求授業を通して職業理解が深まる内容を発信させていく。

②学業不振や、病気等による学生生活不適応な状態となった学生への対応は？

⇒精神面の問題で学業継続が難しくなってきた場合は、教員カウンセラー並びに学校カウンセラーによるカウンセリング、心療内科医師との連携を図りながら援助すると共に、可能な限り多様な配慮を行い退学防止に努めている。

③高度な研究でなくても、仮説を立て検証するという講義はあるのか？

⇒作業療法学科では、研究論は実施しているが、統計分析には課題が残る。今後、分散分析など統計処理を意識した研究法の指導に当たり、素朴な疑問を客観的データで説明できるよう指導したい。

⇒理学療法学科では、2年前期に「統計学」、後期に「理学療法研究論」という科目を設け、研究に関する講義を行っている。また、[物理療法学]の中で物理療法機器を用いた実験を行い、効果検証を行う内容を授業に盛り込んでいる。

④学生の職業意識を高め、学びを継続するには、1年次からの取り組みが必要かと考えるが何か工夫はされているのか？

⇒今まで見学実習を学年末に実施していたが、学業への目的意識・意欲を高める目的で、理学療法学科の見学実習時期を次年度より2月から11月に変更予定である。また、作業療法学科においては、現在8月と2月に見学実習を実施している。

#### 2) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①新カリキュラムにおける臨床実習の取り組み

- ・3年次の総合臨床実習では、OSCE（客観的臨床能力試験）を臨地実習前後に実施し臨床能力を高める。
- ・評価実習と見学実習では、実習前に簡易版OSCEを実施して臨床場面に送り出す。

②国家試験の合格率アップ

- ・毎月1回国家試験対策委員会を開催し、対策の進捗状況と学生の習熟度を確認するとともに対策内容の修正を行う。
- ・成績別グループによる学習を採用し、中・下位成績者は、分野別、出題頻度別に学習を行う。
- ・教員による国家試験対策講義の実施と下位成績者への個人指導の強化を図る。
- ・1・2年生対象の3科目（解剖学・生理学・運動学）業者模試の実施を継続する。